

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月 31日現在

機関番号：17301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2011～2012

課題番号：23830037

研究課題名（和文） 地域社会における中国帰国者の境界文化の実証的研究

研究課題名（英文） An Empirical study on boundary culture of *Chugoku kikokusya* in the local community

研究代表者

南 誠 (MINAMI MAKOTO)

長崎大学・水産・環境科学総合研究科・助教

研究者番号：70614121

研究成果の概要（和文）：

本研究は、地域社会における中国帰国者の境界文化の実証的研究とその比較研究を目指したものである。研究期間中は複数の地域に住む中国帰国者とその支援者を対象に、アンケート調査と聞き取り調査を行った。その結果、日本の地域社会で生きる中国帰国者の生活実態に関する理解を深めただけではなく、地域の差異を確認することもできた。これらの結果は、中国帰国者研究だけではなく、地域における共生社会の構築にとっても示唆的なものである。

研究成果の概要（英文）：

This study aimed at the empirical study and comparative study on boundary culture of *Chugoku kikokusya* in the local community. During study duration, I investigated for *Chugoku kikokusya* and there supporters who lives in the plural areas. As a result, not only deepened an understanding about the life actual condition of *Chugoku kikokusya* who lives in a Japanese local community, but also was able to confirm a local difference. These results are suggestive for *Chugoku kikokusya* study and the construction of the symbiosis society in the local community.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：中国帰国者、境界文化、エスニック・マイノリティ、地域社会、多文化共生

帰国者記事の収集を行ったほか、京都府と東京都周辺在住の中国帰国者を対象に、地域での生活実態に関するアンケート調査をも行った。ほかには、宮城県、奈良県、岡山県、広島県、福岡県と長崎県でも簡単な現地調査を行った(図1 調査地一覧)。

4. 研究成果

(1) アンケート調査の成果

アンケート調査では、日本への永住・定住を選択した理由、来日後の変化、中国帰国者への帰属意識、地域社会での適応状況、家庭内と家庭外での言語使用の差異、来日後の社会ネットワークの変化と家族関係の変容、中国との関係やアイデンティティの志向などを質問項目として取り上げた。

その結果、来日後の経済条件、生活環境、医療福祉、教育条件がよくなる一方、社会活動が悪化したこと、全体の変化がよい方向に向かっていたこと、家族関係が密になっていたこと、運動を通じて中国帰国者への帰属意識が高まっていったことなどの知見を得ることができた。

(2) 現地調査の成果

複数の地域で聞き取り調査をしたことで、地域の支援団体の有無、訴訟運動への参加の有無などによって、中国帰国者をめぐる包摂と排除の度合いが異なっていることを明らかにした。また国家賠償訴訟運動が終結した2008年以降、全国的な中国帰国者ネットワークが存在する一方、各地域においては異なる活動が展開されていることや、地域によって、複数の中国帰国者団体が成立していたことも判明した。

(3) 研究成果の公表と学術交流の成果

本研究期間中では、後述のように、雑誌論文3件、学会発表等13件、図書2件を公表した。

学会発表のうち、行政関係者と中国帰国者支援者、および、一般市民と中国帰国者当事者を対象とするシンポジウムと研究会は3件に及んだように、研究成果の社会への還元に努めた。また中国の延吉大学、南京大学、清華大学と華東師範大学で開催された国際学術会議においても、従来日本国内で議論されがちな中国帰国者の研究成果を口頭発表し、中国研究者との学術交流を活発に行った。現在は中国での研究成果公表作業にも取り組んでいる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

- ① 南誠、越境する中国帰国者の生活世界、21世紀東アジア社会学』日中社会学会、査読あり、2013年、145-158
- ② 保坂稔・渡辺貴史・南誠、日本の自然エネルギー意識に関する分析:権威主義と地域帰属の観点から、『21世紀東アジア社会学』日中社会学会、査読あり、2013年、106-116
- ③ 南誠、国籍とアイデンティティのパフォーマンス・ヴィティ、『京都大学GCOE ワーキングペーパー』、査読あり、第85巻、2012年、1-23

[学会発表](計 13 件)

- ① 南誠、満洲縁故者を手がかりに考える境界文化の意味、国際シンポジウム「グローバル化・インパクトの日中比較」、2013年3月23日、於筑波大学東京キャンパス
- ② 南誠、日本人満洲移民の移動と記憶、国際シンポジウム「移動と記憶の日中比較研究」、2013年2月24日、於長崎大学
- ③ 南誠、近代東アジアの境界文化に関する歴史社会学的試み、国際ワークショップ「近代東アジアの境界文化と長崎」、2012年12月15日、於長崎大学
- ④ 南誠、中国帰国者をめぐる包摂と排除の歴史社会学的研究、国際研究集会「長崎と上海:学際的共同研究への模索」、2012年11月24日、於中国上海華東師範大学
- ⑤ 南誠、満洲引揚者と中国帰国者の歴史社会学的研究、日本社会学会第85回大会「若手セッション 歴史/国家/社会」、2012年11月3日、於札幌学院大学
- ⑥ 南誠、改革開放後の「中国残留日本人」と日中関係、国際研究集会「改革開放以来中国の社会変革と日本」、2012年9月16日、於中国北京清華大学
- ⑦ 南誠、中国残留日本人の形成及び歴史について、長崎県地域生活支援連絡会、2012年7月27日、於長崎市

- ⑧ 南誠、越境する中国帰国者の生活世界、国際シンポジウム「グローバル化時代における人間と社会：日中間の対話」、2012年3月28日、於長崎大学
- ⑨ 南誠、中国帰国者の境界文化における親密圏と公共圏の変容と再編成、京都大学GCOE「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」平成23年度研究成果報告会、2012年2月17日、於京都大学
- ⑩ 南誠、当事者そして研究者として考える中国帰国者問題、中国残留邦人等に関する研究会：まなびや in 長崎、2012年2月5日、於長崎市商工会議所
- ⑪ 南誠、中国帰国者として、どう生きるか：私の経験と研究を踏まえて、シンポジウム「中国残留日本人への理解を深める集い」、2011年10月30日、於神戸市垂水
- ⑫ 南誠、中国帰国者問題、国際シンポジウム「社会を理解する：日中社会学者の対話」、2011年10月28日、於中国南京大学
- ⑬ 南誠、満洲の崩壊と「中国残留日本人」の形成、国際シンポジウム「第2回中日韓文化比較研究」、2011年8月23日、於中国延吉市延辺大学

[図書] (計 2 件)

- ① 南誠、「国籍とアイデンティティのパフォーマンス・ヴィジュアル：個別引揚者と『中国残留日本人』の語りを事例に」陳天璽・近藤敦・小森宏美・佐々木てる編著『越境とアイデンティフィケーション-国籍・パスポート・IDカード』新曜社、2012年、295-319
- ② 南誠、戦争と移動、『民俗学事典』丸善出版 (近刊予定)

[その他]

- ① 南誠、『中国帰国者をめぐる包摂と排除の歴史社会学』京都大学・人間・環境学研究科・博士論文 (2011年5月)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

南 誠 (MINAMI MAKOTO)

長崎大学・水産・環境科学総合研究科・助教

研究者番号：70614121

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：